

(様式2)

事業計画書 (記入例)

1 法人・施設に関する基本情報

(1) 法人概要

法人名	〇〇
法人所在地	〇〇
代表者	〇〇

(2) 事業所概要

事業所名	〇〇	
サービス種別	(例) 介護老人保健施設	
所在地	〇〇市〇〇番地	
施設長氏名	石川太郎	
定員	〇〇名	
利用者数	〇〇名 (8月1日現在入所者数)	
居室形態 ※施設系事業所の場合、 居室形態ごとの定員を 記入してください。	ユニット型	〇〇人
	多床室	〇〇人
	従来型個室	〇人

(3) 現在の施設の状況 (R7.8.1 現在)

①利用者 ※施設系事業所の場合のみ必ず記入

(単位: 人)

要介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数							

②施設の特徴

※現在の施設利用者の特徴等を、具体的に記載してください。

当施設は、パーキンソン病専門の介護施設として対応しており、日内変動や疾病の状況にあわせた介護が必要な方が多く利用されています。

③職員配置状況（常勤換算人数）

（単位：人）

施設長（管理者）		介護支援専門員	
介護職員		医師	
看護職員		栄養士	
生活相談員		機能訓練指導員	
作業療法士		理学療法士	
言語聴覚士			
		計	

※必要に応じて行を追加してください。

2 申請に当たっての確認

（1）申請内容

☐ 伴走支援のみ ☐ モデル事業のみ ☐ 伴走支援又はモデル事業（※）

※「伴走支援又はモデル事業」：まずはモデル事業所としての審査を行い、選定されなかった場合に伴走支援先として審査いたします

（2）申請の目的や目標

※現在抱える課題を踏まえ、申請の目的を具体的に記載してください。

当施設では、施設構造上の課題もあり、夜間の巡視や見回りが職員にとって心身両面で大きな負担となっています。加えて、近年は利用者の居室内での転倒や転落などの事故が増加しているため、事故原因の分析や課題を整理することで、安全面の改善を図ることが急務となっています。

こうした状況を踏まえ、職員の負担を軽減し、利用者の安心・安全な生活を守るため、見守り支援機器の導入を検討しています。導入により、夜間巡視の頻度を減らして職員の負担を軽くし、あわせて利用者の事故を未然に防止することを目指します。

（3）本事業の「介護生産性向上基礎セミナー」（8月7日開催）の受講者について

※セミナー受講者の所属・役職・参加者名記載してください。（2名以上の場合は、3）以降を追記してください）

- 1) 事務局長 石川次郎
- 2) 介護主任 石川三郎

（4）今回の研修あるいは伴走支援の参加に当たり、施設長や所長の協力を得ていますか

※質問（3）にて施設長や所長の参加がある場合は、当質問の回答は不要です。

研修参加にあたっては施設長の同意を得ており、機器の導入に関しては今後理事会に諮る予定です。また、取組開始時には施設長からキックオフ宣言を行う予定です。

(5) 本事業を運営管理していく際の管理・実施体制

※本事業の運営に当たって、どのような体制（プロジェクトチームの体制）を予定しているか、具体的に記載してください。

既に組成されている生産性向上委員会を基盤とし、機能訓練指導員（リハ専門職）や看護職などの専門職が関与し、転倒・転落リスクについてアセスメントし課題を分析します。課題解決に必要な機器の試用検討を行い必要な機器を選定し、導入予定の機器メーカーとの調整窓口は事務局長が担当し、副施設長がオブザーバーとして参加します。

(6) 介護事業所の将来像

※業務改善という観点から、今後の介護施設の目指す姿をどのように考えるか具体的に記載してください。

当施設は、利用者が本人の能力を生かし自立度高く、安心して生活でき、職員が働きやすい環境を維持することで、今後も地域で長く必要とされる施設を目指します。介護職員の業務負担を軽減し、離職防止と人材確保を進めることで、安定的な運営を維持します。ICT や介護ロボットの活用を通じて、ケアの質と安全性を高め、「働きたい職場」「利用したい施設」としての魅力を向上させます。職員にとっては業務の効率化とやりがいのある職場環境を、利用者にとっては安心して質の高いサービスを提供します。

また、導入の成果や運用ノウハウを地域に共有することで、地域全体のサービス向上に貢献します。こうした取組を継続し、将来にわたり持続可能な施設運営を実現します。

(7) 介護ロボット及びICTの活用及び普及啓発への取組について

※これまでに介護ロボット及びICTを導入した実績がある場合は、その機器名や活用状況（効果を含む。）等を記載してください。（ない場合は、介護ロボット及びICTへの考え方などを記載してください。）

令和3年度に施設内の通信環境を整備し、既存の請求ソフトと連携する形で介護記録ソフト（メーカー名：〇〇）を導入しました。あわせて、PC〇〇台とタブレット〇〇台を配備し、日々の記録業務に活用しています。

また、同年に移乗支援機器（メーカー名：〇〇）を〇台導入し、必要に応じて一部利用者の移乗支援に活用しています。これにより、職員の身体的負担軽減と安全なケア提供に寄与しています。

※モデル事業所を希望する場合は、本事業の成果を県内の介護事業所へ普及する際の心構えを記載してください。

施設が所在する〇〇地域のモデル施設として、地域への情報発信や施設見学の受け入れを行うとともに、所属団体においても事例紹介などを通じた情報発信に努める予定です。

※生産性向上推進体制加算（Ⅰ）及び（Ⅱ）の算定実績について記載してください。算定していない場合は、算定に向けた準備状況について記載してください。

現在、加算（Ⅱ）の算定は可能な状況にありますが、KPIの算定に不安があるため、現時点では取得していません。将来的には加算（Ⅰ）の取得を目指しています。

(8) 介護ロボットの導入、外国人介護人材や介護助手の活用など関連する取組の実施実績がある場合は、以下に記載してください。

※取組の概要を、テーマごとに簡単に記載してください。

外国人介護人材については、平成 30 年度より受け入れを開始し、現在は在留資格「介護」で 1 名、特定技能で 3 名が勤務しています。いずれも日常のケアや夜勤業務にも安定して従事しており、施設の運営、職員の業務負担軽減に大きく寄与しています。

介護助手については、令和 5 年度から週 3 回、2 名を配置し、リネン交換や下膳などの補助業務を担当しています。これにより、介護職員が利用者ケアに集中できる時間が確保され、サービスの質の向上につながっています。

今後も、外国人介護人材および介護助手の活用については継続・拡大し、人材確保と職員の働きやすい環境づくりを進めることで、持続可能な施設運営を目指します。

以上